

米国の獣医教育と獣医師(II)

誌名	日本獣医師会雑誌 = Journal of the Japan Veterinary Medical Association
ISSN	04466454
著者	金川, 弘司
巻/号	25巻1号
掲載ページ	p. 40-41
発行年月	1972年1月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



れたと解すべき病変が主体をなしている点から本例を真菌性疾患と考えたい。

なお、感染の門戸が気道系か消化器系かの断定は困難であるが、病変の成立には菌糸を包含する血栓ならびに同時に見られる血管壁の変化を重視したく、いずれにせよ血行を介して体内に拡がったものと解される。

DAVIS らの 11 例の牛と 1 例の豚、および GLEISER らの 2 例の犬と 1 例の牛で観察した Mucormycosis の組織所見では、肺、リンパ節、腎などに肉芽腫が形成され、石灰化・Rosette 形成・類上皮細胞や巨細胞の出現など結核病変との類似性を指摘しているが、本例は患者が幼弱で抵抗性が弱いために急性経過を辿り、かかる増殖性の変化にまで進行せずして斃死に至ったのであろう。

犢における本症例のごとき報告は本邦においては、これが最初と考えられるが、近年抗生剤などの使用にからんで菌交代現象などもいわれており、今後犢のみならず各種動物にかかる真菌症が多発する機運にあると思われる。

る。

したがって、今後獣医師・畜産家ともども十分な注意を向けるべき疾患の一つであると考えらる。

摺筆に当たり、本研究に際し終始懇篤なるご指導を賜わった帯広畜産大学家畜病理学教室上田 晃、小野 威両博士ならびに有益なる助言と校閲の労を賜わった同薬理学教室田村俊二、井上和幸両博士に心から厚くお礼申し上げます。

(なお、本報告の要旨は 1966 年第 125 回日本臨床獣医学会・北海道において発表した)

文 献

- 1) AINSWORTH, G.C. & P.K.C. AUSTWICK: *Vet. Rec.*, 67, 88~98 (1955).
- 2) DAVIS, C.L., W.A. ANDERSON & B.R. McCRORY: *J. Am. Vet. Med. Ass.*, 126, 261~263 (1955).
- 3) GITTER, M. & P.K.C. AUSTWICK: *Vet. Rec.*, 71, 924~927 (1957).
- 4) GLEISER, C.A.: *J. Am. Vet. Med. Ass.*, 123, 441~445 (1953).
- 5) PINSENT, P.J.N. & H.E. RITCHIE: *Vet. Rec.*, 67, 769~771 (1955).
- 6) SANDERS, L. Z.: *Cornell Vet.*, 38, 213~238 (1948).

資 料

米国の獣医教育と獣医師 (II)

金 川 弘 司*

各獣医科学校を卒業して D.V.M. や V.M.D. の学位をもらってドクターと呼ばれても直ちに獣医師の資格があるわけではなく、各州獣医師会が行なうその州の獣医師開業資格試験に合格しなければならない。この試験内容は各州によっていくらか異なるが大体は理論と臨床に関する筆記および口答試験である。しかし州を変わるとまた、その州の試験を受けなおさなければならず、これらの不便さを解消するために 1954 年以降カナダも含めて北米一律の獣医師全国統一試験制度を作った。しかし、この制度を全面的に認めているのは現在カタダの 2 州とアメリカ 29 州とワシントン D.C. のみである。

次に大学院制度をみてみよう。獣医科学校を置いている 18 大学全部が大学院を有しているが、これら大学院は獣医科学校に属しているのではなしに大学院 (Graduate School) として大学内で独立している。アラバマ州のツキギー大学には大学院制度はあるが教育系と一般科学系の修士課程のみで獣医系では習得できない。残り 17 校中 16 校は修士課程 Master of Science (M.S.) と博士課程 (Ph. D.) の両方を置いているが、ペンシルバニア大学の獣医科には修士課程はなく博士課程 (Ph. D.) のみである。また、コーネル大学は博士課程に 2 種類あり Ph.D.

の他に D.Sc. (Doctor of Science in Veterinary Medicine) と呼ばれるものがある。一般に D.Sc. は Ph.D. よりさらに上の学位であり、長い間の学界や地域社会の貢献に対して与えられる名誉学位も Ph.D. ではなしにこの後者がふつうである。

本稿では卒業後に D.V.M. と V.M.D. の学位と獣医師の資格が取れる 18 の獣医科学校を中心に記したが、獣医学教育全体からみると、たとえばウイスコンシン大学のように学部学生は置いていないが獣医学の大学院教育だけを行なっている大学もあるし、D.V.M. または V.M.D. の学位は出していないが何らかの型で獣医学教育や研究の行なわれているこれらの大学を調べてみると第 9 表に例記したように 30 校にも及ぶ。このことは米国の獣医学教育が幅広い底辺を持っていることを物語っている。これらのうち多くの大学は獣医学講座 (Dept. of Vet. Sci.) の名前を使用しており、このうち数校は近い将来獣医科学校 (School または College) に昇格させる予定である。この中ですでに政府と米国獣医師会の認可を受けているのはルイジアナ州立大学で、1972 年 9 月から学生募集を始める予定である。これら近い将来に獣医科新設を計画している大学と州を纏めてみると第 10 表のとおりであり、これらの計画が順調に進めば 5 年以内に現在の 18 校から 22 校に増えるものと考えられる。

* ミシガン州ウェイン州立大学

(昭和 45 年 11 月 25 日受付)

第9表 獣医科学部学生は置いていないが、何んらかの形で獣医学教育と研究の行なわれている大学

No.*1	大学名	(英文)	研究室名
1	アリゾナ大	U. of Arizona	Dept. of Anim. Path.
2	アーカンサス大	U. of Arkansas	Dept. of Anim. Sci.
3	コネチカット大*2	U. of Connecticut	Dept. of Anim. Dis.
4	デラウェア大	U. of Delaware	Dept. of Anim. Sci. & Agric. Biochem.
5	フロリダ大*2	U. of Florida	Dept. of Vet. Sci.
6	アイダホ大	U. of Idaho	Dept. of Vet. Sci.
7	ケンタッキー大	U. of Kentucky	Dept. of Vet. Sci.
8	ルイジアナ州立大*3	Louisiana State U.	School of Vet. Med
9	メイン大	U. of Maine	Dept. of Anim. Path. & Vet. Sci.
10	メリーランド大	U. of Maryland	Dept. of Vet. Sci.
11	マサチューセッツ大	U. of Massachusetts	Dept. of Vet. & Anim. Sci.
12	ミシシッピ州立大	Mississippi State U.	Dept. of Vet. Sci.
13	モンタナ州立大	Montana State U.	Vet. Res. Lab. & Dept. of Vet. Sci.
14	ネブラスカ大	U. of Nebraska	Dept. of Vet. Sci.
15	ネバダ大	U. Nevada	Anim. Sci. Div.
16	ニューハンプシャー大	U. New Hampshire	Anim. Sci. & Station Vet.
17	ラットガス大	Rutgers U.	Dept. of Anim. Sci.
18	ノースカロライナ州立大	N. Carolina State U.	Dept. of Anim. Sci.
19	ノースダコタ州立大	N. Dakota State U.	Vet. of Dept.
20	オレゴン州立大	Oregon State U.	Dept. of Vet. Med.
21	ペンシルバニア州立大	Pennsylvania State U.	Dept. of Vet. Sci.
22	ロードアイランド大	U. of Rhode Island	Dept of Anim. Path.
23	サウスダコタ州立大	S. Dakota State U.	Dept. of Vet. Sci.
24	テネシー大	U. of Tennessee	Dept. of Anim. Husbandry & Vet. Sci.
25	ユタ州立大	Utah State U.	Dept. of Vet. Sci.
26	バーモント大	U. of Vermont	Dept. of Anim. Path.
27	バージニア工芸大	Virginia Polytechnic Inst.	Dept. of Vet. Sci.
28	ウエストバージニア大	W. Virginia U.	Div. of Anim. Industry & Vet. Sci.
29	ウイスコンシン大	U. of Wisconsin	Dept. of Vet. Sci.
30	ワイオミング大	U. of Wyoming	Div. of Microbiol. & Vet. Med.

註：*1 大学名はABC順 *2 5年以内に獣医科学学校開校準備中 *3 1972年より獣医科学部学生募集

第10表 5年以内に獣医科学学校開設予定大学

No.	大学名	大学所在都市	開校時期	予学 生 定数	備 考
1	ルイジアナ州立大 (Louisiana State University)	ベイトンルージ (Baton Rouge)	1972	32	確定
2	フロリダ大 (University of Florida)	ゲインズビル (Gainesville)	1974	64	予定
3	コネチカット大 (University of Connecticut)	ストアーズ (Storrs)	1975	64	〃
4	カリホルニア大* (University of California)	?	?	?	〃

註：* カリホルニア大学は第2獣医科学学校を作る計画であるが、どのキャンパスにするかは未定。

近年わが国で獣医科新設が問題となったが、獣医師数と家畜頭数などからみると米国はわが国とは全く異なった

事情にあり、米国獣医師会の推定では1980年代には現在の約2倍44,000人の獣医師が必要と考えられている。しかし、無計画に獣医科学学校や獣医師を増加することはせず、その州の家畜数やペット数などの細かな分析を行ない、さらに適当な教育施設と教官がそろい、しかもそれらに対する十分な経済的保障が得られない限り、政府と獣医師会は認可を与えないようである。参考までに4年後に開校を目指して運動をしているフロリダ大学の獣医科学学校新設計画の一部を紹介すると、1970年度には獣医科学学校の部長を選び、校舎建設の計画と教官の人選に当たる。1971~72年にかけては米国連邦政府に働きかけて予算獲得に努める。1972~73年には州政府に働きかけてやはり予算獲得に努める。1973~74年にかけて基礎講座の建築工事を完了し、1974年9月から学生募集、引続いて臨床関係の工事と内容充実の努めというかなり長期にわたる慎重な計画を樹てている。

× × ×